

## 平成 20～23年度 大気汚染とお子さまの健康との関連を調べる調査のご報告

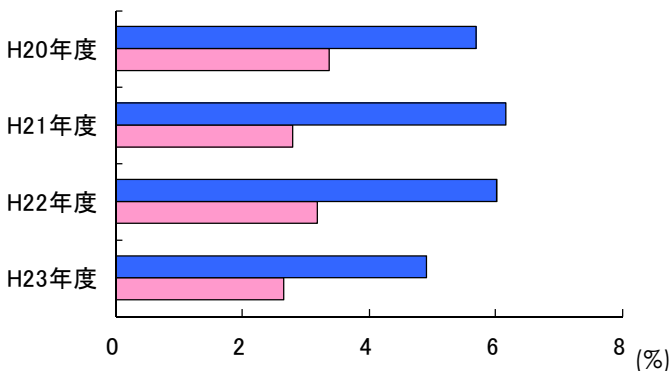
有効回答者数：平成 20 年度 2,578 名 (1 年生)、4,660 名 (2～6 年生)  
平成 21 年度 2,587 名 (2 年生)  
平成 22 年度 2,665 名 (3 年生)  
平成 23 年度 2,541 名 (4 年生)

加古川市と播磨町では、加古川地域における大気汚染の状況と小学生の健康状態との関連を検討することを目的としたアンケート調査を平成 20 年度から実施しています。

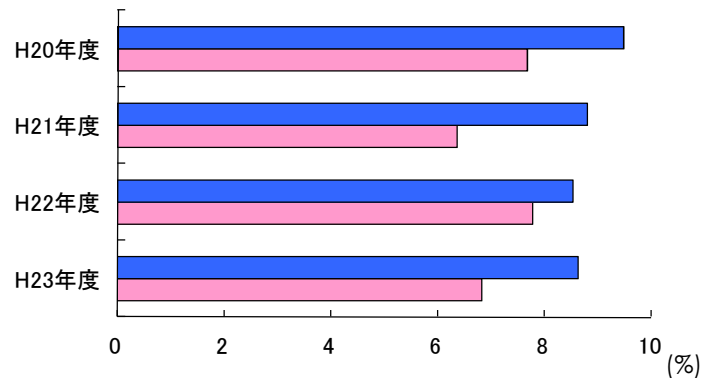
平成 20 年度は、地域内の小学校の 1 年生全員と大気環境測定局に近い小学校の 2 年生から 6 年生を対象に、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎に関連する症状についてお尋ねしました。その後、お子さんの成長に伴う症状の変化などを調べるために、平成 21 年度は 2 年生、平成 22 年度は 3 年生、平成 23 年度は 4 年生全員を対象にしました。同様に、平成 24 年度は 5 年生にご協力をお願いします。また、平成 24 年度は本調査の最終年度であるため、平成 20 年度と同様に、一部の小学校では全学年の児童を対象として、ご協力をお願いします。

調査は 5 年間の結果を取りまとめて解析を行います。平成 20～23 年度の結果より、ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性鼻・結膜炎症状について集計した結果をご報告します。

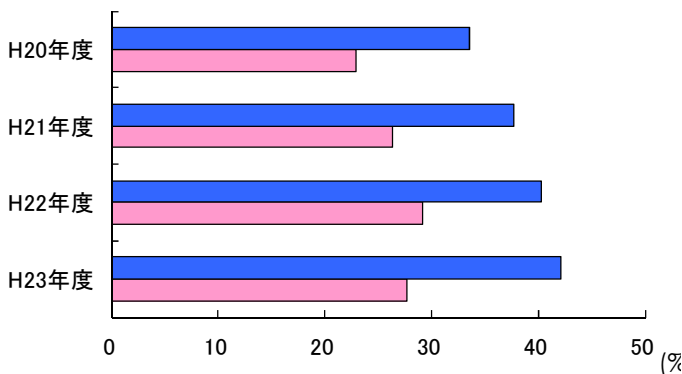
### ぜん息症状がある児童の割合



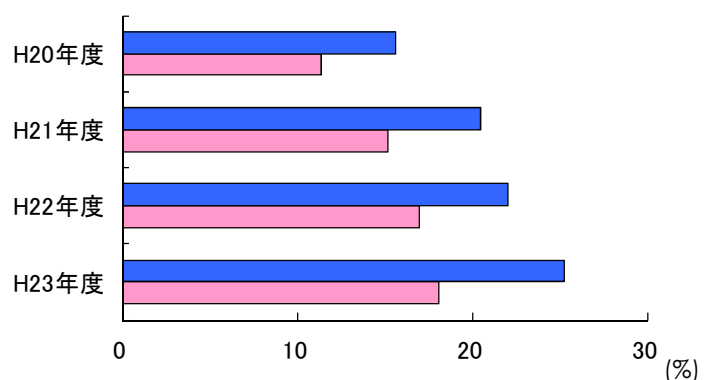
### アトピー性皮膚炎症状がある児童の割合



### アレルギー性鼻炎症状がある児童の割合



### アレルギー性鼻・結膜炎症状がある児童の割合



■ : 男子、■ : 女子 (平成 20、21、22、23 年度はそれぞれ 1 年生、2 年生、3 年生、4 年生の結果)

ぜん息症状のある児童の割合は、平成 23 年度は男子 4.9%、女子 2.7%であり、平成 20～22 年度に比べて、男女ともにやや減少していました。アトピー性皮膚炎症状がある児童の割合は、平成 22 年度に比べて男子ではほぼ同じでしたが、女子では減少していました。アレルギー性鼻炎の症状がある児童は、平成 22 年度に比べて男子では増加し、女子ではやや減少していました。また、アレルギー性鼻・結膜炎の症状がある児童は、男女ともに年々増加し、平成 23 年度は男子 25.2%、女子 18.1%でした。

小児のぜん息やアレルギー疾患は女子よりも男子に多いことが知られていますが、今回の調査の結果でも 4 つの症状はいずれも女子よりも男子に多くみられました。

このように、お子さまのぜん息やアレルギーの症状は成長とともに変化しますので、大気汚染との関係を検討するためには、お子さんの成長に合わせて経年的に調べて、総合的に判断する必要があります。